

10本の『とんばた』が祈る

豊漁と海の安全

小木の伴旗祭り

勇壮な海の祭り
小木の御舟神社の春祭り「伴旗祭り」は5月2日(月)・3日(火)に行われました。

本祭りの3日午前4時、旗起こしの集合を告げる「起きんかやッサイ、起きんかやッサイ」という子どもたちのかけ声が太鼓とともに響きます。午前5時、町内ごとに2艘の伝馬船を一つに組んだ伴旗船に高さ20メートル、幅2メートルの幟旗を起こします。幟旗は町内の中学生が中心となって約2カ月かけて製作されます。約800枚の和紙をついで作られたこの旗には、願いを込めた5文字が力強く書かれています。

伴旗船は午前6時から小木港内をまわり、午前7時のサイレンとともに小木港の北にある九十九湾に向かいます。

九十九湾を周回した伴旗船が戻ると、神社を出発した御輿が町内を練り回ります。午後3時過ぎ、御輿を乗せた御座船と各町内の10隻の伴旗船が1列に繋がれ、小木港内を周回し港外に出ます。沖では、恵比寿神社が鎮座する金剛山に向かって神事を行います。

日本海側有数の港町であり、漁業の町である小木の人々が豊漁と安全を切に願う伴旗祭り。その想いは、見る者を圧倒します。



▲港外に出て神事を行う御座船。船上から海に向かって3本の御神酒が供えられた

小木港の海岸を練り回る御輿。御座船に乗る、乗らないを数回繰り返す▶

九十九湾の蓬莱島をまわる伴旗船。美しいリアス式海岸を進む伴旗船は、一見の価値あり▼



能登町
いいところ
めぐり
①

本のことならおまかせ！
「能登町立中央図書館」編



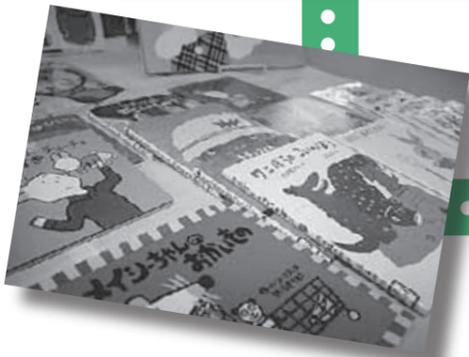
- 開館：午前9時～午後5時
 - 休館：月曜日、火曜日、祝日、特別整理期間（毎月最後の日）
 - 住所：能登町字宇出津レ字9-1
- ☎ 62-3458

図書館へ行ってみよう！

図書館では子どもの年齢に合わせた本を紹介してくれる「ブックトークサービス」や、調べ物をしたい時に必要な資料を出してくれる「レファレンスサービス」なども受けられます。



中央図書館は、公立宇出津病院のすぐそばにあります。蔵書冊数は58,920冊、学校帰りの小学生や一般の方など一日に約50人の利用者が訪れます。



館内には新刊コーナー、パソコンコーナー、ビデオコーナーなどいろいろなコーナーが設けられています。また、小さなお子さんに読み聞かせを始めたいというお母さんたち必見の大型絵本や、音の出る本、紙芝居なども充実しています。



図書館職員の田仲美津代さんにお話を伺いました！

この図書館のいいところは？

「できるだけ利用者の方の読みたい本をそろえるように努力しているところですね。“その本はありません”と一言で言ってしまうと、その方とのつながりがなくなってしまう気がするので、あらゆる施設から取り寄せるなどして対応しています」

図書館に勤めていて嬉しかったことは？

「以前ある悩みを解決したいと本に救いを求めて来館した方に本を紹介してあげたのですが“本だけに頼ったりしないで参考にしてくださいね”とお声をかけました。数カ月後その方からお礼の言葉が届き、とても感激したことを思い出します」

町民のみなさんに図書館のPRを！

「本を動かしながら読み聞かせて子どもたちを喜ばせるアドバイスや、本に関するさまざまな相談などのできる限りお答えします。ぜひ図書館へ遊びにきてくださいね」

取材後記

学生の頃から図書館と
言えば「勉強するところ」
だと勝手にイメージして
いたわたしにとっても、
田仲さんの明るく楽しい
対応と、この施設で利用
できるさまざまなサービス
に新鮮さを感じました。
特に館内の本について
知り尽くさないといけない
「レファレンスサービス」
はぜひ利用してみたい
と感じました。
この図書館を待ち合わせ
場所として利用する
方もいらっしゃるそうで
まずはお母さん一度
中央図書館へ足を運んで
みてください。

能登を深紅に染める

『のときりしま』



柳田植物公園にある樹齢300年と推定される「のときりしま」は5月10日ごろに満開になりました。高さ約3メートルの巨木は枝いっぱいに深紅の花を咲かせていました

5月1日から3日にかけて、能都庁舎4階ホールで開催された「のときりしま展」は今年で14回目を数え、たくさんの人が訪れました



柳田植物公園では、5月4日から8日にかけて「のときりしま展」が開催されました。岩に根が絡んでいるものなど凝った作品の数々に見物客は見入っていました



【のときりしまツツジ】

ツツジ科ツツジ属低木常緑広葉樹
南九州の山に咲いていたミヤマキリシマツツジが、江戸時代に全国で流行した際、耐寒性の強い品種に改良され、愛好家や出稼ぎなどの人々によって能登地方に植栽されたとする説や、北前船で能登に運ばれ能登の風土に合うように進化したとする説などがある。

樹齢300年以上の古木もあり、一重咲きや二重咲きなど、おおまかには赤系6種類、紫系2種類に分けられる。

各種委員決まる

第2回議会臨時会

4月26日に開催された第2回能登町議会臨時会において上程された、監査委員、公平委員会委員、固定資産評価審査委員会委員の選任について、教育委員会委員の任命についての人事案件4件は、議会の同意を得て、次の皆さんが委員に就任されました。

また、4月27日に開催された第4回能登町教育委員会臨時会において、石井勲雄氏が新しく教育長に就任しました。



公平委員会委員

- ・川端登喜夫（68歳・宇出津）
- ・石田 榮子（61歳・笹川）
- ・椿原 安弘（63歳・時長）

固定資産評価審査委員会委員

- ・數馬 毅（67歳・宇出津）
- ・赤田 一男（67歳・当目）
- ・井高 吉孝（75歳・上）

教育委員会委員

- ・石井 勲雄（67歳・宇出津）
- ・久保 献令（60歳・七見）
- ・仲谷 由美（60歳・天坂）
- ・松本 博（67歳・小木）
- ・舛谷 伸子（59歳・松波）

監査委員

- ・識見選任委員
- ・彌録 文彦（63歳・上町）
- ・議員選任委員
- ・多田喜一郎（56歳・宮地）

新教育長に石井勲雄氏が就任



石井勲雄氏（67歳・宇出津）

略歴：平成10年3月に飯田高等学校校長を退職後、県高校PTA連合会事務局長、旧美川町教育員を歴任し、平成15年10月から旧能都町の教育長

この度、能登町教育委員会教育長を拝命いたしました石井勲雄です。もとより微力ではありますが、当町の児童・生徒の健やかな成長のために、教育行政推進のために、誠心誠意努力する所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

～次代を担う人材の育成～

1 学校教育

「不易」の教育（いつの時代も変わることなく人間として身につけたい）

- ・基礎学力の定着
- ・学力の向上
- ・身体の健康
- ・心（思いやり）の心
- ・あいさつの励行
- ・ルールの厳守

「流行」の教育（社会の変化に対応したたくましい人間の育成）

- ・総合的な学習の充実
- ・生きる力の育成
- ・心の教育の推進
- ・ふるさと教育の推進

国際化に対応した教育

- ・右手にコンピュータ、左手に外国語1つ、真中は日本人の心

2 スポーツ振興

生涯にわたり、健康で明るく充実した生活を送るために、日常生活の中で、スポーツ・レクリエーションに親しむとともに、地域に根ざしたスポーツクラブの推進を図る。

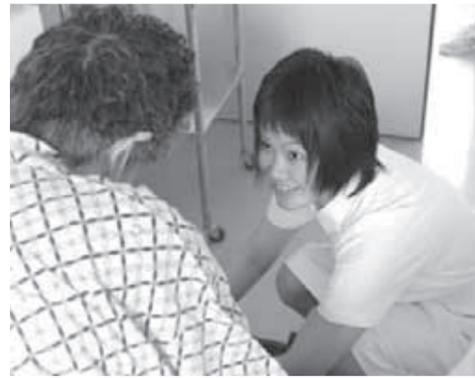
3 生涯学習

高い理想と意欲に燃えた生きがいのある人生を送られるよう学習の場の提供とボランティア活動の普及に努めるとともに、総合的な生涯学習社会の実現を目指す。

宇出津総合病院だより

「ふれあい看護体験」

「看護の心をみんなの心に」



21世紀の高齢化社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、広く国民が分かち合うことが必要です。このことを、老若男女を問わず誰でも認識するきっかけとなるように「看護の日」（毎年5月12日）が制定されました。

そこで、今年で15年目を迎える「看護週間」（5月8日～14日）に県内では、宇出津総合病院を含む38カ所の病院で「ふれあい看護体験」が実施されました。

「実施日」 5月10日（火）

「場所」 各病棟（3F～5F）

「参加者」 地元高校生9人（能都北辰高校・珠洲実業高校）

「参加者の感想」

▼最初は慣れないことばかりで少し戸惑ったけど、患者さんの笑顔や「ありがとう」という言葉が聞けたので、すごく嬉しかったです。

▼血圧と脈を測ったときはとても緊張しましたが、患者さんがとても優しく、「頑張って看護師さんになってね」と言ってくれたので、とても嬉しかったです。

■診療時間の変更

〈診療科〉 呼吸器内科 大谷先生

〈診療時間〉 木曜日

午前8時30分～11時30分（午後から午前に変更になりました）

■小児科専門外来

〈循環器〉 6月・7月は休診です

〈小児神経〉 28日（火）午後2時～4時

公立宇出津総合病院
☎ 62-1311

監査委員とは...

監査委員は、地方公共団体の事務執行の正否や適否をチェックし、住民や議会などが正しく判断するもとなる情報を提供します。そのため、監査委員は町長の指揮監督から職務上独立し、常に公正不偏の態度を保持して監査を実施します。委員は識見を有するものと議員から選任されます。

固定資産評価審査委員会とは...

固定資産の価格に関する納税者の不服を審査決定するため、地方税法に基づき設置されている行政委員会です。固定資産の価格が総務大臣の定める固定資産評価基準によって適正に評価されたものであるか否かについて審査を行います。委員は3人で納税義務者または学識経験を有する者から選任されます。

公平委員会とは...

地方公務員法に基づき設置されている行政委員会です。3人の委員で構成されています。地方公務員の労働基本権が制限されている代償として、中立的な立場で職員の利益の保護と公正な人事権の行使を保障するために設けられており、準司法的権限を持っています。

教育委員会とは...

教育・学術・文化の特質・重要性を踏まえ、教育行政の中立性と安定性を確保することを目的として、町長から独立した行政委員会として設置されています。能登町教育委員会は5人の教育委員で組織され、会議を開き、教育に関する重要な事項を審議・決定しています。

6団体に239万円助成!



公益信託 エンデバーファンド21

住民主体のまちづくり活動を応援する「公益信託 能登町エンデバー」

「ファンド21」の審査会が5月16日に能登庁舎で開かれました。

このファンドは、新たな特産品の開発や自然環境保護、新たな活性化事業などに助成し、町の振興を図る制度です。旧能登町で平成8年度から始まり成果をあげていることから、能登町でも継続実施して行くことになりました。

今年度は6つの団体から申請があり、審査の様子は一部公開されました。団体の代表者は、町内有識者のほか町出身の元外交官や県外のジャーナリストなどからなるファンド運営委員の前で企画内容について説明を行いました。

審査の結果、今年度は6団体に合計で239万円を助成することが決定しました。助成する団体の構成や内容などは次のとおりです。

活動グループ名	代表者・人数	企画内容
YAMABIKO 柳星乱舞隊	谷坊美明ほか 63人	よさこい踊りを通じ、町の活性化をめざすとともに子どもたちの社会性や故郷愛を育む。また、独自の踊りを研究し、新たなイベント創出に挑戦する。
斉和地区振興委員会	山本待夫ほか 25人	神和住城跡のロマンと歴史を研究し、城跡を中心とした特色ある地域づくりに取り組む。
能登しめじ栽培研究会	高市範幸ほか 5人	能登の里山を活用した観光きのこ園の整備と能登しめじ、能登まいたけの栽培研究と特産化をめざす。
柳田盆友会	宮本康一ほか 22人	能登キリシマツツジのルーツ解明と、キリシマツツジを通じた韓国との交流に取り組む。
日本の凧の会やなぎだ支部	奥野 清ほか 15人	町の文化として能登町にしかない独自の凧を研究して製作する。
能登海の幸・山の幸	数下光枝ほか 2人	地元にある水産関係の研究機関を活用し、魚の加工技術向上に取り組む。インターネットによるPRで通年販売をめざす。

これからは国民年金です

国民年金は、あなたの生涯のパートナーです。

年金は、老後の生活を支えるだけでなく、万が一の事故や病気などで障害を負ってしまった場合や、不幸にして一家の働き手を失ってしまった場合などにも、年金を受けられることで安定した生活を送れるように社会全体で支え合う制度です。

<受けられる年金は3種類>

- 1 老齢基礎年金** → 794,500円(年額)
65歳から生涯にわたって受けられる年金です。20歳から60歳の40年間の保険料を納めることを基準とします。(最低25年間が必要です。)
- 2 障害基礎年金** → 1級障害 993,100円(年額)
→ 2級障害 794,500円(年額)
万が一、病気や事故で重度の障害の状態になったときに受ける年金です。
- 3 遺族基礎年金** → 1,023,100円(年額) 妻・子(1人)の場合
一家の生計を支えていた人が亡くなったとき、残された子のある妻や子が受ける年金です。
※毎月キチンと保険料を納めることで、老後や万が一の時の保障が受けられます。

将来、年金を受け取る権利を守るために、届出は忘れず確実に行いましょう。

詳しくは社会保険事務所、または下記窓口にお問い合わせください。

〈窓口・問い合わせ〉 町民課 能都総合サービス課 柳田総合サービス課 小木支所 七尾社会保険事務所 ☎0767-53-6511

チャレンジ・デ・ラブロ ラブロ恋路体験教室 参加者募集!

●イカの一夜干し作り体験(先着10人)

海洋深層水を使ったイカの一夜干しを作ってみませんか。
 〈日時〉6月12日(日)午前9時〜
 〈場所〉農林水産物加工開発センター1(立壁)
 〈参加費〉1000円
 〈服装〉エプロン、頭巾、タオル

●豆腐作り体験(先着10人)

九十九湾沖で取水したミネラル豊富な海洋深層水を使った豆腐づくりに挑戦しよう。
 〈日時〉6月26日(日)午前9時〜
 〈場所〉農林水産物加工開発センター1(立壁)
 〈参加費〉2000円(昼食代含む)

〈服装〉エプロン、頭巾、タオル

〈申込み〉それぞれ開催日の3日前までにお申し込みください。
 〈問い合わせ〉
 ラブロ恋路 ☎72-1234



能登有料道路の 新割引通行券販売! 7月1日より利用できます

能登町の住民に対して、割引額を上乗せした新たな割引通行券を販売します。
 〈利用開始日〉7月1日(金) 午前0時から
 ※現行の割引通行券は、払戻しを行いませんが、7月1日以降も利用できます。

〈販売場所〉会計課・町民課・柳田総合サービス課・小木支所・鶴川支所・高倉出張所
 〈販売開始日〉6月23日(木)
 〈販売時間〉午前8時30分〜午後5時
 〈販売方法〉免許証などを提示していただき、能登町の住民であることを確認のうえ販売します。

※1人1回あたりの販売枚数の限度は10枚です。
 〈問い合わせ〉
 会計課 ☎62-8509

	車種	通常料金	割引料金	割引額
全線	普通車	1,180円	720円	460円
	軽自等	830円	520円	310円
白尾券	普通車	1,060円	600円	460円
	軽自等	730円	420円	310円

大型車(I)(II)も割引されます。区間券は現行どおりです。



「もう少し病院が近くにあれば」「もう少し交通の便が良ければ」「もう少し公園が多ければ」... 私たちの暮らしの中で、「もう少し」があればいいなと思うことってありますね。そんな、あなたの「もう少し」のために。国勢調査は、人口・世帯などを知るための最も基本的な統計調査。国の施策やまちづくりのための大切なデータになります。

**あなたの調査票が
国の施策やまちづくりのデータに**



平成17年10月1日(土)

総務省統計局

学校を飛び出して課外授業！

▶おばあちゃん元気で長生きしてね



松波中学校の1年生55人が4月27日、特別養護老人ホーム「第二長寿園」を訪れ、ボランティア活動を体験しました。この活動は生徒たちの社会性の向上をめざした取り組みの一環として行われました。生徒たちは窓ふきや園内の草むしりなどの清掃作業にあたりました。また利用者の方とのコミュニケーションを図るため、一緒に工作をするなどしてこの日の活動を終わりました。数年前に交流会としてこの施設を訪れたことのある生徒は、自分自身の成長と共にボランティア精神に対する考え方も学んでいたようでした。

親子で過ごす子どもの日！

▶よいドン！僕が一番速いぞ！



宇出津地区の「子どもを守る会」と「こどもみらいセンター」が毎年開催している親子レクリエーション大会が、子どもの日の5月5日、遠島山公園で行われました。この大会は、30年以上前から続いて、この日は親子連れ約350人が一緒に体を動かしました。能登町として初めての大会となった今年は、米の麻袋をくぐり、テニスラケットでボールを運び、深層水を飲むといったゲームも行われました。会場は、終始子どもたちの笑い声や歓声が聞こえ、とても楽しい子どもの日となりました。

祝！5万人達成

▶記念すべき5万人目の利用者は地元七見の東ミサラさんでした



能登七見健康福祉の郷「なごみ」は4月24日に利用者5万人を達成しました。昨年10月にオープンした「なごみ」は、温泉浴場、プール、レストランなどを備える施設で、デイサービスセンターが併設されるなど、地域住民の健康増進と福祉の向上を目的として整備されました。1日平均250人から300人の利用があり、オープンから175日目の5万人達成となりました。加須屋所長は「要望が多かったプールと温泉が利用できる会員券も作りました。今後はプールの利用増を図っていきたい」と話していました。

上手に植えられたかな？

▶わずか40分で、苗を植えました



いしかわ森と田んぼの学校推進プロジェクト事業「米づくり体験農園」の田植えが5月13日に行われ、柳田小学校の5年生33人が田植えを体験しました。児童らはJA職員の説明を聞いた後、石田孝造さんが提供してくれた、広さ4アールの田んぼに入りました。はじめは泥の感触に戸惑いながらも、慣れてくると楽しそうにカグラモチの苗を植えていました。秋には、自分たちが稲刈りを体験し、収穫した餅米でおはぎなどを作って味わいます。稲刈りまでにたくさんのお作業があることを確認した児童らは、たまに田んぼに足を運んで観察しようと話していました。

新しい仲間とともに、能登町スポーツ少年団が結団！



▲能都中プラスバンド部の演奏に合わせて堂々の入場

能都支部の結団式は4月24日、宇出津小学校グラウンドで行われました。式では、12団体221人が団旗に続いて堂々と入場し、団歌を全員で合唱しました。支部長の数馬嘉雄さんは「能登町全体で480人の仲間がいることを忘れずに、目標に向かって力強くがんばってください」と団員らを激励しました。式の後、クイズやジャンケンなどの交流会を行った団員らは、自分たちの町をきれいにしようとしてクリーン活動に出かけました。

柳田支部の結団式は、4月27日に柳田小学校体育館で行われ、剣道、軟式野球、バドミントン、空手、陸上の5つの団体、約70人が結団しました。式では、柳田支部長の奥野清さんが、「目標を持って健全な心と体を鍛えてください」と団員に呼びかけました。その後、今年一年指導してもらおう指導者の紹介が行われました。最後に団員代表の平諒生くん（軟式野球、6年）と干場麻友美さん（剣道、6年）が力強く誓いのことばを読み上げました。



▲各団旗の前で、力強く宣誓



▶サッカーで鍛えたキックでホームラン？

内浦支部の結団式は5月14日、内浦総合運動公園しおさい広場で行われました。この日は11団体約100人が新しい仲間とともに、今年一年元気に活動することを誓いました。式では、内浦支部長の河元龍夫さんが、「基本的に忠実に練習すれば素晴らしい成績が残せます。今年一年心をひとつにしてがんばりましょう」とあいさつし、団員代表の4人が、協力・努力・友情・喜びの誓いの言葉を述べました。式終了後に行われた交流会では、キックベースボールを行いお互いの交流を深めました。

イカ釣船の技術を習得

▶ 固い握手を交わす研修生と船主



イカ釣りの知識と技能を研修する、インドネシア研修生の歓迎会が5月12日、小木漁業協同組合で開催されました。受け入れをはじめて4年目を迎える今回は、1年目の研修生14人、2～3年目の実習生60人が、小木・能都町漁協に所属するイカ釣漁船12隻に乗船し、6月から12月までの半年間にわたってイカ釣研修を行います。歓迎会では、ヘルマワンさん（24歳）が「進んだ技術を一生懸命身につけたいです」と流ちょうな日本語であいさつしました。歓迎パーティーでは、研修生と船主がしっかりと握手を交わし、これからの研修生活に向けた強い意欲を伝えていました。

甘くておいしい赤崎いちご！

▶ 何個食べた？ 100個！



赤崎いちご園（布浦）の「いちご狩り」は5月下旬にピークを迎え、週末には県内外からたくさんのお客が訪れました。いちご園は入園料を払えば、食べ放題となっていて、園内はたくさんの家族連れが、真っ赤に実ったイチゴを思う存分味わっていました。

5月21日には、赤崎海岸で「^{いちごいちご}莓一会」が行われました。会場では、カニ鍋やいちごミルクが振る舞われ、地元の特産品などが販売されました。いちご園から会場へ、会場からいちご園へと相乗効果でどちらも大賑わいを見せました。

県大会出場をかけた熱い戦い！

▶ ピッチャー振りかぶって 第1球投げた！



能登町野球協会のナイター施設完成記念トーナメント大会が5月10日、内浦野球場で開幕しました。この大会は3月に完成した夜間照明施設を利用して、協会員の技術向上と親睦を深めることを目的として行われました。

協会長の東幸雄さんによる始球式のあと、初日となったこの日は能都クラッツと小木ビクトリーの対戦が行われました。町内の7チームが出場し、優勝チームに与えられる県民体育大会出場権をかけ、熱戦が繰り広げられました。ベンチからは、バッテリーボックスに入る選手たちに大きな檄が飛び交っていました。

本物をめざす伝統の酒造り

▶ まずは香りからテイステイング



能登杜氏組合内浦支部の「きき酒研究会」が5月12日、内浦スポーツ研修センターで開かれました。午前中に行われた品評会では、支部員の杜氏22人が丹精込めて作り上げた自慢の清酒54点が出品され、会場内は新酒のふくよかな香りに包まれました。審査は「色」「香り」「味」などについて出来栄を競い合います。酒造り歴50年の杜氏は「吟醸酒部門は優劣が付けられないほど判定が難しかった」と話していました。全国的に名声を高めてきた能登杜氏。伝統を守る一方、若い世代の杜氏が多く誕生してくれることを期待します。

新生能登町に響いた！魂を揺さぶる太鼓の音

新町誕生を記念した能登町太鼓フェスティバルが5月15日、柳田植物公園野外ステージで町内外合わせて11団体が出演して開催されました。当日は少し肌寒い一日となりましたが、町指定文化財の伝統太鼓や、創作太鼓など、迫力ある太鼓が次々に披露され、訪れた約1000人の観客を魅了しました。

このイベントは、町内8つの太鼓団体が合併を記念して集結し「響け！夢と希望のまち」をテーマに能登町の発展を願い、また各団体との親睦をより一層深めるためにと企画されました。

古くから人々のさまざまな願いを込めて叩かれてきた太鼓や、現代風にアレンジした創作太鼓など会場内には力強い太鼓の音が響き渡りました。

各団体がこれからも「見る人、聴く人」の心を揺さぶるような太鼓を叩き続けてくれるよう期待しています。



- ・力強いバチさばきを見せた「国重太鼓」（写真上）
- ・オープニングを飾った「YAMABIKO 柳星乱舞隊」のよさこいソーラン（写真左）
- ・天狗が獅子を退治！松波の「唐獅子太鼓」（写真右下）
- ・地域の太鼓を楽しく後世に「かんの創神太鼓」（写真左下）

